
メランコリック・シンドローム

kozai

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メランコリック・シンドローム

【Nコード】

N8687N

【作者名】

k o z a i

【あらすじ】

どこともわからない場所、いつともわからない時間、少年は空に人の浮かぶのを見た。

神を名乗るソレは確かに人以外の何かだった。

ソレは生き返らせてやると少年に言った。

少年はそれを信じた。なぜなら少年に生きる意味など無かったから。いざ、生き返らせようと儀式を開始したその瞬間、空に光が煌いた。

というわけで。シリアスに決めてみました。

それは夢見ていた転生で

右を見ても誰もいない。

左を見ても誰もいない。

前を見ても後ろを見ても誰もいないし、下など見てもそこには地面があるだけで誰かがいるわけがないし、ましてや上なんて見たところで人が空など飛べるはずもないのだから人がいるわけもない。はずの空に人がいた。

「……は？」

目をこする。ぱちぱちと瞬きする。頭に拳を落としてみる。

そんなことしても現実には変わらずに、空には変わらず人がいる。

「神だ」

見えているものが信じられず、そんな行動を取っているボクに空の人が唐突にそんなことを言った。

きつと頭が沸いてるんだらうボクも、そして空の人も。

ボクは見えていないものが見えていて、空の人はきつとただの厨二病。自称神ってなんぞww

あ、でも待てよ。空の人が見えていないのに見えているなら、それはただのボクの妄想で、その発言も然るにボクの妄想で。ってことはおかしいのはボク一人？

妄想の人にそんな発言をさせるなんて、ボクってば神になりたい願望でもあるんだらうか。頭は沸いてるし。妄想ではそんな発言させてるし。鬱だ。激しく鬱だ。死のうorz。

「いや、いやいやいや。神だし。わし神だし。いやほんとに。」

「べつに。いつ死んでもいいとか思ってたし」

それに最近は二次小説とかそんなので転生モノとか多いし。それの主人公とか大抵そんな反応とかしてないし。

「うん。そんなもんなんかのう……」

「いや、そんなことはどうでもいいし。そんなことよりなんか用があつて来たんでしょ？ 早く用件済ましてくんないかな？」

首傾げてるヒゲ爺とかかわいくもなんともないし。どうせなら口りな娘とかシヨタな男の娘とかの首傾げてる姿が見たかったよ。クール娘とかでもよし。……うん。想像したら萌える。フヒヒ。

「おお、そうじゃな。てか顔キモイぞ、お主……」

おつとなんか自称神（w）が言ってるぞ。至福の妄想タイムを強制終了して顔を引き締める。てか顔キモイとかヒゲ爺に言われたくないねえ。

「それじゃな、お主には今から転生してもらおうと思つとるんじや」

転生フラグキタ（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）

（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）（。）

うしっ！ キましたよ転生フラグ！ なんか神（w）とか言い出した時はナニ言ってたコイツm9（^）（^）プギャーとか思いましたけど、実はヤル人、いや神（w）だったんスね！ 信じてましたよボクは！

「さつきから神（w）神（w）うっさいわい！ 神（w）とか思うんじゃない！ そんなこと言うんじゃないら転生取りやめにするぞい！」

「いやすいません！ もう神（w）とか言い、いや思いませんから転生させてください！ てかついでにチート能力とかください！」

ちっ、神（w）め。ココロ読めるんじゃないかよ、私読めませーんみてえな面しやがってよ、マジウゼー（、）、（ウゼー

「まだ神（w）とか言うか！ しかも何気に要求とかしてくるし！ ホントに転生させんぞ！」

「いや！ ホントすいません！ マジで脳内彼女に言い聞かせますから、マジ転生させてください！ そしてチート能力ください！」
「脳内彼女って……」

なんか絶句してる神（w）……いや神様。てかマジウゼー！ なココロ読まれるのって。ボクの脳内お宝画像とかもそのうち読まれるんじゃないか？ ネコミミ幼女のおねだりポーズとか、地味っ娘のお色気ポーズとか。

そんなことを考えていたら、なんか神（w）いや、神様の顔が赤く染まって頬が微かににやけだした。

「あ！ 読みやがったな！ ボクのお宝脳内メモリー！」

「いや！ わし読んでないよ！ ホントじゃよー！」

頬を染めつつぷいっとそっぱを向く神。マジキメー（。。）
<氏ね！

「うおっほん！ では転生の儀式に移らさせていただきますぞい！」

咳払いして居住まいを正す神。もはや威厳もくそもない。てか首
いて」。いい加減地面に降りて来いよ、くそポケロリコンヒゲ爺が。
呆れるボクを見下して、神は変わらず空でふんぞり返っている。

「ではまず、お主の死因からだが……」

「そんなことどうでもいいからさっさと転生させてくれれば」

「いや、そんなこと言われてもじゃがな。一応規則なもんじゃから
……」

「規則とかホントどうでもいいし。てかたかが一人の人間が死ん
だ程度で神様登場ってどういうことよ？ 天界ヒマなの？ 神様っ
てもしかしてヒマでヒマでしようがないただのヲタですか？」

「だって天使のウリたんマジ怖いんじゃもん……」

キメエー……んだよ！ “もん……”とか、“た
ん”とか言ってるじゃねえぞ、このくそポケロリコンヒゲヲ爺が
！ かわいくもくそもねえ……んだよ！ てか誰だよウリたんっ
て！ ウリ坊か！？ もしかしてただのイノシシの子供とかそんな
オチですか！？ 神様ウリ坊に追っかけまわされて天界おっぼり出
されたとかそんなコントみたいな展開とかそんなのですか！？

「ちがわい！ ウリたんは天使でしかも超絶美人じゃよ！ 胸なん
かパツツンパツツンで足なんかムツチリしとって、そりやもう悩殺
天使じゃよ！ わしなんか毎時限点ごとに悩殺されまくりなんじゃ
よ！」

シラネエよ！ このくそポケロリコンエロヒゲヲ爺・改が！
てかテメエロリコンじゃねえのかよ！ 人の脳内メモリーただ見し
て頬を染めてたくせによ！ ついでになんだよ“毎時限点”っての
はよ！ わけわかんねえ用語語ってるじゃねえぞ、コラ！ テラ犯

すぞ！

「改ってなんじゃよ・・・気付けばなんかわしの呼び方どん
どん長くなってるし。神とかもう欠片も残ってないし。マジひどい
し」

落ち込むくそボケロリコンエロヒゲヲ爺・改。そんなことマジ
どうでもいいから話を進めてくれと言いたい。

「グレるぞ。わしマジでグレちゃうぞ。わしグレちゃたら世界終わ
っちゃうんじゃぞ」

はいはい（ノー）ノ・・・>+ 焼却炉

とか何とか、思考と会話の応酬 話を交わしてないから会話と
は呼べないだろ？ を繰り返してたら、神様の後ろの方の空高く
に光が出現した。擬音で表現するなら多分、

（・ー）・・・ キュピーン！

とかそんな感じ。

出現した光は瞬く間に大きくなり、そして最期には、

。。。 「ズガーン

と爆音を起こしながら、神に激突した。

音が先だったのか激突したのが先だったのか。気がつけば空にい
た神が地面にズザーと音を立てて滑り込み、——（——

くそボケロリコンエロヒゲヲ爺・改（神）——その
手前には某家事万能英霊よろしくかっこいい背中を向けて立つきれ
いなお姉さま（真・神）がいた。

なんぞこれwww

「お・ま・え・は・・・・・・・・」

「ひ、ひいいい」

情けない声を上げながら地べたを這いずり後退するくそポケロリ
コンエロヒゲヲ爺・改（元・神）。背中でも痛めたのかかばうよ
うに後退し、そのたびに顔が引きつる。顔が引きつってるのはもし
かしたら恐怖のせいかもしれない。

地獄の底から響くようなお姉さま（真・神）の声。ゴゴゴゴゴ、
と某奇妙な冒険のごとくに字がお姉さまの背後で踊り狂う。まるで
マンガのよう。

「お前は！ 一人の！ 死人を！ 転生させるのに！ どれだけの
！ 時限！ 点を！ かける！ つもり！ なんだ！」

“！”のたびにお姉さま（真・神）が見舞うヤクザキック。食ら
うたびに“ぐえっ”とか“ぎゃっ”とか情けない悲鳴を上げるくそ
ポケロリコンエロヒゲヲ爺・改（元・神）。ちよつとうらやまし
いかもしれない。ボクはマゾではないのだけれど。でもSかMかで
聞かれたら、どちらかというMだと思うが。

「今から！ 今からやるつもりじゃったんじゃって！ だからぐえ
っ！ 蹴るのをブギヤ！ 止めてひぎ！ 欲しいがぼっ！ んじや
がのぷりおぼっ！」

「今からって！ お前が！ 出て行って！ もう既に！ 30ほど
の！ 時限点が！ 過ぎていっつーのに！ まだ！ 始めても！
なかったと！ 言うのか！！」

ちよつとかわいそうになってきた。元神、顔変わってきてるよう

な気がするし。

蹴りが50ほどに達しようかという頃、落ち着いたのが疲れたためかお姉さま（真・神）が荒い息を吐きながらようやく蹴りを止めた。

元神、死に掛けの虫のようにぴくぴくと手足をひくつかせてる。

あれ、死に掛けてないか？ 神が死ぬのかどうかは知らんが。でもどこことなく幸せそうというか、なんかアへってるように見えるのはボクの気のせいか……？

「気色のワリイ爺だ」

最期にお姉さま（真・神）は元神の股間にヤクザキックをお見舞いする。ビクンと反り返る元神の背中。なんか一度アへってるように見たからどうみてもイってるようにしか見えません。本当にありがとうございます。

「さて」

振り返るお姉さま（真・神）。

マントというか外套というかぼろきれにしか見えない布を羽織っていたため見えなかった体のラインが明らかになる。というか、体のラインしかなかった。

服と呼べるものは全く着ていない。おへそはまるだし、太もも丸見え、どころか股間部位の盛り上がりさえ見えそう。胸の谷間は当然のごとく見えてるし、そもそも隠しているところが重要なところのみという大胆ハレンチスタイル。胸を隠すのは羽織っているぼろきれと同じような布で、もはや隠しているのはいないのか。下半身にはジーンズに似た何かを履いてはいるものの、もはや水着と何ら変わりないという始末。エロイよ、エロイよお姉さま（真・神）。元神と同じように思考でも読めるのか、一度汚いものを見たかの

よつに目をそらし、舌打ちをするお姉さま（真・神）。ちよつとゾクつときた。

「おい、おまえ！ お前が死人か！？」

まあここにはボク一人しかいないし、さつき元神も死んだとかいないとか言ってたしそうなんだろう。ボクは頷いた。

「どこまで説明を受けた！？」

どこまでも何も。全く。元神エロイばかりで話進めなかったし。思考を読んだのか表情を読んだのか、お姉さま（真・神）の表情が苦みばしつたものになる。役に立たない爺が！ と口の中で呟くように罵倒し、元神に蹴りを入れる。ビクンと反り返る元神の背中。ホントにイってるようにしか見えません。ありがとうございました。

「ちっ！ めんどくせえな……時限点ももつたいねえし……ちくしょ、疲れっけどあれすつか」

そう言っつて懐からメモ帳らしきものを取り出した。

「俺の名はウリエルだ」

ウリエル。なんか大地の天使とかそんなイメージがあるな。そういやどつかのマンガでは地獄の門番的な位置付けにいたような。うん、死人の案内役にはぴつたりなんじゃないだろか？ 少なくともラファエルとかガブリエルとかよりはよっぽど適任、のような気がする。

というか、何故今名を名乗るのか。今そんなときだったっけ？ 意味わかんね。

ていうかウリエルってなんか聞き覚えがあるような……
いやもちろんマンガとかで見知ってはいたけどそれ以外でなんかつ
い最近この耳で聞いたような覚えが……

「あつ！ ウリたん！」

そうだ！ そっぴや元神がそんなこと言ってたよ！ 胸のがパツ
ツンパツツンで太ももムツチ惱殺天使とか何とか。うん、まさに惱
殺天使だな。神がいつも惱殺されてるのもわかる。

うんうん、と頷くボクの顔にお姉さま（真・神）の蹴りが舞い降
りた。

ぐるんと一回転するボクの視界。いま！ 今視界がぐるんて！
比喻でもなんでもなく360度全景見渡したぞボク！

一回転したボクの頭を片手で掴み、お姉さま（爆裂脚・神）が言
う。

「二・度・と・俺のことをウリたん　なんて呼ぶんじゃないやねえ……
……い・い・な？」

なんてつけてないよボク！ てか怖いよ、怖いよお姉さま（爆
裂脚・神）！ 神が恐怖するのわかるよ。てかウリたんって呼ぶ
だけでこれってことはいつも惱殺されてる元神ってもしかしてなく
てもマゾですか！？ てことはさっきのってマジでアへってた！？

驚愕の真実にガクブルするボクガクガク（（；。））
ブルブル

お姉さま（爆裂脚・神）が降臨してから使ってたからなん
か久しぶり！ 顔文字！ って感じ。ちよつと感傷に浸ってみた。

というか“ウリたん”のとこだけ妙に声がかわいかったのは秘
密だ。ましてや、“ウリたん”ていう呼び方を本人が気に入ってる
んじゃないか？　なんてことは口が裂けても言ってはならぬ！

兎にも角にも頷くボク。もう視界が一回転する恐怖体験は二度と
したくない。死ねる。もう死んでるらしいけど魂的に死ねる。

「ちっ！ マジもうめんどくなくなった。もういいや略式で。いいよな
？ お前もめんどいのはきらいだろ？ それになんだかぐだぐだ感
も出てきたしな」

ぐだぐだ感つてのが何だかはわからんがめんどいのは嫌いだから
同意の意を込めて頷いた。

お姉さま（爆裂脚・神）はそれを見るといつと凶悪に笑うと、お
もむろにジーンズに手をつ突っ込んだ。ちょwwwエロス突入ですかw
wwwマジかんべんwwwフヒヒwww

「同意してくれて助かったよ。何せもうこんな続けるのもマジ退
屈になってきたしな。オレも早く本編読ませてえし。マジ助かったよ」

ジーンズから手を引っこ抜くとそこにはなんか馬鹿デカイハンマ
ーが握られていた。ずるりと抜き出した柄はおよそ2m半、ハンマ
ー部を入れると5mに及ぶかと言うほどの巨大な品。ハンマーの面
部分には凶悪なまでに鋭いトゲが鮫の牙のように並んでいる。

え？ エロスは？ 禁断の裸突入イベントは？？ てか何？ こ
の凶悪なハンマー？ どこから出したの？ 海パソ刑事っすか？
てかこれでナニスンの？？？

「決まってるじゃねえか」

凶悪な笑みを深めながらお姉さま（ハンマー大使）は言う。
大きく振りかぶるソレはいかにも全力ですっていう感じ。

「お前を叩き潰すんだよ」

え？ まさか？ 死んだって言うのにまた死ぬの？ うそ？ マジですか？？

「マジだよ」

笑いさえ込めてお姉さま（ハンマー大使）は言う。

彼女の後ろではなんか元神が手を合わせてる。てかお前！ 止めるよ！ 彼女止めるよ！ お前の部下だろが！ つかお前どこの神だよ！ ウリエル部下に持ってんだつたら間違っても東方の神じゃねえだろ、常考！ 宗教ちげえんだよ！

「んじゃ、サイナラ」

いや！ 待って！ 転生だよ！ これって転生なんだよね！ てことはもうちつとあれやこれやいろんな問答あって良くない！？ 例えば転生先の決定とか！ 例えばもっていけるチート能力の決定とか！ ねえ！ それってどうなってるの！？

「気にスンナよ」

いや！ 気にするでしょ！ 色んな転生もののオリ主とか馬鹿馬鹿しいまでにチート能力バカスカつけて逝ってるのに！ なんてボクだけ転生先決められないわ、能力無しだわそんなのわけ！？ おかしいでしょ！？ ねえ神！ そうなってるの、これ！？

神は素知らぬ顔で無視している、ばかりかお姉さま（ハンマー大使）の外套に隠れて見えないお尻を覗こうと地面に這いつくばって四苦八苦している。エロイよ神！ てかマジ空気嫁！

「どつせ、」

いや！ ほんとに待って！ おかしいって！ これ絶対おかしいって！

こんな理不尽受け入れられるかと逃げようとした手足は、まるで鉛のように重く重く地面にめり込むかのごとく吸いつけられて動けなくなる。

待って！ ホントに待って！ せめて転生先、いや能力くらい決めさせて！ 後生だから！ お願いだから！ 丸腰で戦争モノとか行きたくないんだって！ 死ぬって！ 転生しても死亡フラグビンビンにおっ勃ってるって！

止まらない。いくらボクが望んでも振りかぶる動作は止まらない。地面すれすれまで振りかぶったハンマーは視認することもできないような速度でボクの頭に落ちてくる。避けられない。避けることすらできない瞬きの瞬間。

その瞬間に、お姉さま（真・神）は、静かな声で言った。

「これはお前の望んだ妄想だ」

テレビの電源を切るように。

ノイズが走り、やがて意識は真っ暗になって消えた。

それは夢見ていた転生で（後書き）

あとがき

というわけで、0話です。

転生もの、と思った方はサーセンww

正直最近新しいものって転生もの多いですからね。そんな風な作品は他の作者様たちに任せまして。わたくしは！ 独自のものを創ろうと思ひまして！ こんな風なプロローグにさせて頂きました！
どうですか？ わりと面白そうじゃないですか？ 自分で言うのも何なんですが、ちょっと面白そうだなとか思ったりなんかしちゃったりするんです。自意識過剰ですね、スイマセン。

まあ冗談はさておき。

感想など頂きたいなと思います。皆様の感想でわたくしのインスピレーションが浮いたり沈んだり！ しちゃったりなんかしたりするわけでして。とは申しましてもこれが初投稿作品になるわけですから、わかんないんですけどww

んでもって作品傾向なんかをここでひとつ。

正直、暗いです。暗くする予定です。ギャグもそこそこ盛り付けてく所存ですが、基本暗くすることを考えて作品を作っていきます。

これからもSS創って行きますが、作者のテンションの上下のために。感想の方をよろしくお願いしますm(´`´) m

P.S.

あ、ちなみに気付いてる方もいらっしやるとは思いますが(´とい
うかバレバレですが) 最期はあれです、ゲ カエルソのアレです。
主人公なんか似てるなとか最期アレだなとか思っても、とりあえず
ソレとは別物ですのであしからず。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8687n/>

メランコリック・シンドローム

2010年10月10日05時16分発行